

外観・内観デザイン

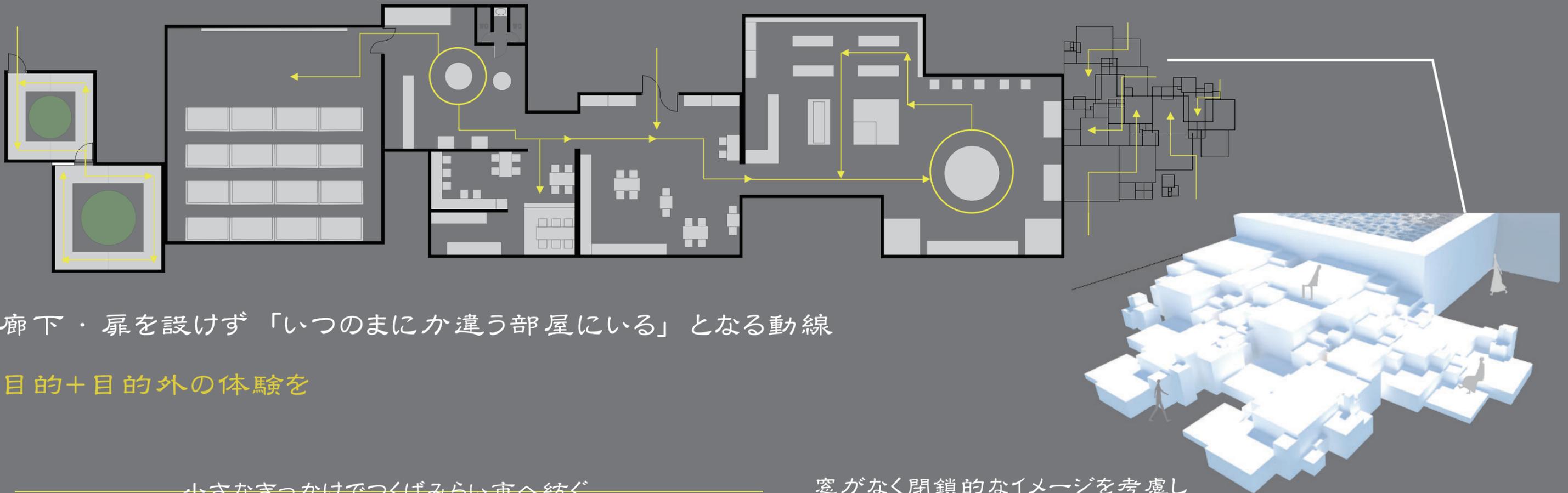
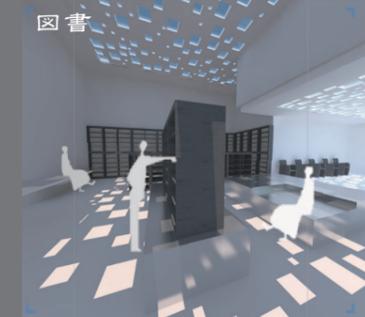
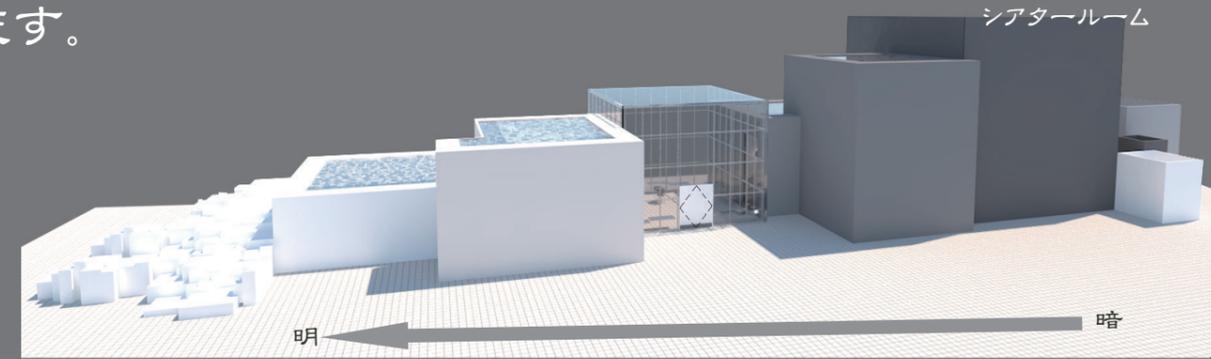
つくばみらい市の伝統工芸「網火」をイメージした天井になっています。

壁面：窓を設けない

天井：ガラス張り（採光を取り入れる）

- ・ 四角い穴の開いた天井で入る光で網火を表現しており、部屋の用途によって光の量を調整し視覚的に楽しめる空間に
- ・ つくばみらい市のシンボルになるような外観
- ・ 四角のみで構成され、外壁がモルタル仕上げになっています。
- ・ グレーを基調にしたグラデーションになります。

シアタールームからイベントスペースにかけて明るく店内の光の量と比例しています



廊下・扉を設けず「いつのまにか違う部屋にいる」となる動線

目的+目的外の体験を

小さなきっかけでつくばみらい市へ紡ぐ

窓がなく閉鎖的なイメージを考慮し

外との繋がりとして階段のようなアスレチックのようなフリースペースを設置

計画趣旨

「偶発的に人が巡り会うミニシアター」

(地元住民と来訪者をターゲットに設定)

ミニシアター・本屋・カフェ・イベントスペースなどの一般的な商業施設ですが
人と人が巡り会いつくばみらい市と紡ぐきっかけになる場所になると考えます。

つくばみらい市の現状と解決策

つくばみらい市といえはが少ないという問題（人を集めるきっかけがない）を
一つの観光地を建てることで解決するのではなくつくばみらい市全体を巻き込み解決したい。

▼
そこからきっかけづくりに着目しました。きっかけ（邂逅）を通して

地元住民と来訪者が繋がり会話が生まれる

「つくばみらい市ってどんなところなの？」

「この辺りでおすすめの場所ってありますか？」

「～な活動をしてるよ」

「～なお店があるとうれしいんだよねー」

▼
偶発的に魅力やつくばみらい市らしさ・つくばみらい市に提供したいことが見えてくる

来た人によって感じるつくばみらい市が異なるため

それぞれの関わり方を選択できる

なぜミニシアター？

①ワークショップ江戸との関連性

もっと活かしたい・知ってもらいたいという思いから
イベント開催時以外の関わり方としてミニシアター
ワークショップ江戸で撮影された作品などを
上映することで活かしながら人が集まるきっかけに

②ミニシアターの楽しみ方（来訪者）

シアターによって上映作品が異なり、
様々なシアターを訪れるため

多方面から様々な人が集まると考える

「つくばみらい市に行く」よりも

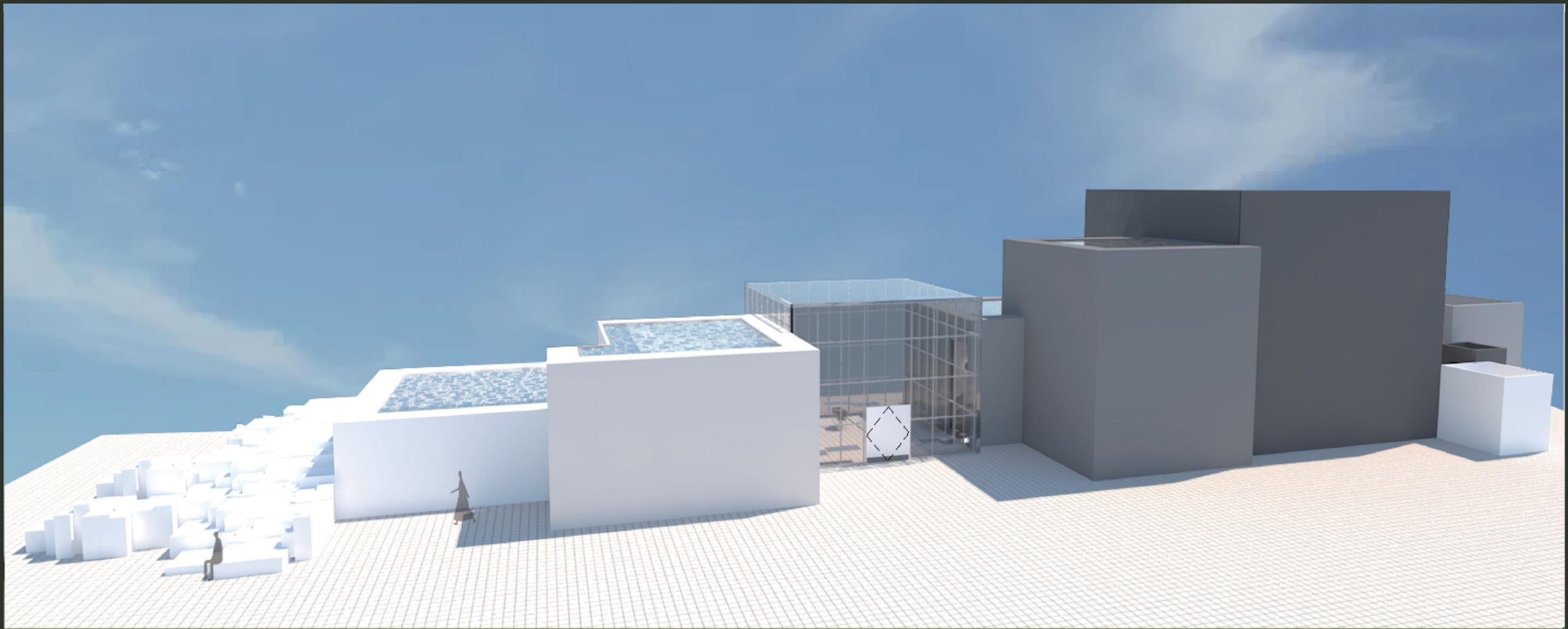
「たまたまつくばみらい市だった」を狙う

②ミニシアターの楽しみ方（地元住民）

つくばイーアスでは上映されない作品を

床座のシアタールームで一味違う映画体験を提供

子供や家族向けの上映宅



かいこう

邂逅

建築設計デザイン学科 萩原すず

